平成２６年度

（第 3/3 回）

（課題別研修）

農民主導による普及手法（B）

実施要領

平成２７年１月

独立行政法人国際協力機構（JICA）

Japan International Cooperation Agency

目　　次

1. 案件基本情報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2. 案件の背景・目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

3. 上位目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

4. 案件目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

5. 単元目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

6. 研修成果品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

7. 研修員参加資格要件 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

8. 研修実施体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

9. 研修の評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

10. 研修付帯プログラム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

11. 主な宿泊場所 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

12. その他 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

参考資料

付表－1　研修員関連情報

付表－2　コースカリキュラム（案）

付表－3　コース日程（案）

付表－4　年度別受入実績表

1. 案件基本情報

(1) 案件名

和文：(課題別研修）農民主導による普及手法（B)

英文：Training and Dialogue Program on "Farmer-led Extension Method (B)

(2) 受入期間

平成27年1月13日（火）～ 2月13日（金）

(3) 技術研修期間

平成27年1月19日（月）～ 2月12日（木）

(4) 定員、割当国

定　員：14名（受入数 14名・うちC/P枠2名）

割当国：アフガニスタン 、ガーナ（3)、ケニア、ミャンマー（3)、スワジランド、

タンザニア、ザンビア(2)　、マラウイ（2)

※マラウイ2名はC/P枠

(5) 研修類型：人材育成普及型

(6) 使用言語：英語

2. 案件の背景・目的

普及員の少なさや施設・設備の不足は、途上国における農業普及の課題として常にあげられる。しかしながら、財政難や民営化といった政策的理由のため、これらを充足するために新たな財源や人材を確保することは現実として難しい。このため、普及員が農家を訪問し指導する従来のアプローチには限界がある。

農民主導による普及（f armer-led-extension）は、このような従来の普及が抱える課題に対する解決策のひとつとなり得る。農民主導による普及は国の財政負担を軽減するだけでなく、営農の多様性や普及の平等性に良い影響を及ぼすこともできる。例えば、女性は農業や共有資源に対して男性とは違った役割を持つことがあると報告されているが、これまで普及の対象外であった。農民主導による普及は、こうした女性

も巻き込むことができる。

また、農民主導による普及においては、普及員の態度も変わらなければならない。普及員は“教師”というより、むしろ研修の機会を提供するプロモーターであったり、農家を動員するオーガナイザーであったり、試験の方法や科学的知見を伝授する控えめなアドバイザーであることが求められる。しかしながら、途上国では教育における数々の問題のため、一般の普及員が科学的に課題に対処することを困難にしている。加えて、コミュニケーション能力あるいはその重要性に対する認識の不足のため、農家が抱える問題を的確に把握できなかったり、農家から得られる情報を軽視したりする問題が生じていることから、技術協力の枠組みを通じ、普及員のそのものの在り方につき、改善を図ることが期待されている。

3. 上位目標

各国において農民主導による普及を立案、実施できる普及員の数が増加する。

4. 案件目標

帰国した研修員によって、農民主導による普及計画が行われる。

5. 単元目標

(1) 農民主導による普及活動で用いるカリキュラムを作成できる。

(2) 基礎科学を学び、応用科学との関係が説明できる。

(3) 地域開発における農業・畜産の意義について説明できる。

(4) 帰国後の農民主導による普及活動の計画を纏めた活動計画が作成される。

6. 研修成果品

(1) 本邦研修実施前

「初期報告書（Inception Report)」の作成

研修の主題にかかる研修員および所属組織の課題やそれに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に報告する。

(2) 本邦研修終了時

「中間報告書 (Interim Report)」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に単元目標（4）にかかる活動計画（案）を作成し、コース終盤に発表する。

(3) 帰国後の事後活動

「最終報告書 (Final Report)」の作成

研修員は帰国後、中間報告書に書かれた活動計画（案）を所属組織に報告、関係者と共有のうえ、最終的な活動計画をまとめ、帰国後6ヶ月以内に JICA 北海道（帯広）に提出する。JICA 北海道（帯広）は同計画書を関係者と共有のうえ、次年度以降に実施される研修に内容をフィードバックし、必要に応じフォローアップを検討する。

7. 研修員参加資格要件

(1) 募集要項記載条件

ア. 農業指導者、普及員等、自ら普及活動計画を立案し、実施促進できる立場にある者

イ. 当該分野で３年以上の経験を有する者

ウ. 年齢が４５歳未満の者

(2) 各案件共通資格要件

ア. 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること

イ. 大学卒業あるいは同等の学力を有すること

ウ. TOEFL iBT 72 点（CBT 200 点／PBT 533 点）以上に相当する英語能力を有すること

エ. 心身ともに健康なこと

オ. 軍に属していないこと

8. 研修実施体制

本案件は、コースリーダーである帯広畜産大学の門平睦代教授の助言のもと、独立行政法人国際協力機構北海道国際センター（帯広）が研修コースを計画し、関係諸機関の協力により実施・運営する。技術研修期間中は、JICA 登録の研修監理員を配置する。具体的業務は次のとおり。

JICA 北海道（帯広）

ア）実施計画書作成（案件目標、研修期間等）

イ）テキスト、資料等の作成（翻訳・印刷等）

ウ）実施予算の執行管理

エ） 通訳・翻訳 （研修監理員による対応）

オ） 評価 等

帯広畜産大学

ア）日程表の調整・作成

イ）講師、視察先等への連絡・確認

ウ）テキスト・資料等の取り付け

エ）研修員に対する技術レベルの把握及び技術的指導

9. 研修の評価

(1) 評価の目的

案件目標に基づき、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本案件の質的改善を図る。

(2) 評価の方法

ア）コースリーダー等による案件目標の達成度把握

イ）研修員が提出する質問票による評価

ウ） JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 北海道（帯広）、コースリーダー、講師が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度以降のコース改善に向けて対応方針を検討する。

10. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に北海道国際センター(帯広)で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

日本の政治・行政、経済、教育などを紹介する。

(3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として 4.5 時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程（予定）

日　程	内　　　容
1月 14日(水)	ブリーフィング 日本語研修
15日(木)	ブリーフィング 日本語研修
16日(金)	日本語研修

11. 主な宿泊場所

北海道国際センター（帯広）

所在地：〒080-2470　北海道帯広市西20条南6丁目1番地2

Tel（0155）35-2001　　Fax（0155）35-2213

12. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員にJICAから修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア）入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ）滞在費

JICA規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本コースに地域の小中学校の生徒や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

付表ー1

平成26年度（課題別）農民主導による普及手法（B）（J1404363/J1421615）研修員情報

研修員情報（英語力はリスニング／スピーキング／読解／記述の能力の順に4段階で示す。A:優、B:良、C:可、D:自信なし）

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴（専攻） ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目	備考
1	① SERAJI Ehsanullah ② D1408934 ③ 26 ④ 男性 ⑤ アフガニスタン	① 農業灌漑畜産省 農業局普及部 サフラン農業普及担当官 ② 3年1ヶ月 ③ カブール大学（農学・理学士・10年） ④ BBBB ⑤ （無記入）	① サフラン農家の農民圃場検討会（FFD）や農民圃場学校（FFS） ・サフラン農業協同組合の創設 ・指導用教材の提供 ・農家へのサフラン農法の研修 ・サフラン農業生産の向上 ② 新規の農業技術の導入と普及 ・農家への技術指導 ・農業圃場検討会や農業圃場学校の創設 ・品種改良種や肥料の配給 ・農業生産データの収集	・技術的な能力向上と新しい農業技術 （特に関心のあること） ・普及手法 ・農民圃場学校（FFS） ・IPM（総合的病害虫・雑草管理） ・ポストハーベスト ・ICM（総合的収穫管理）	
2	① MANU John ② D ③ 52 ④ 男性 ⑤ ガーナ	① 食糧農業省 郡部農業開発ユニット（アダンシ北郡）農業局長 ② 3年9ヶ月 ③ クワメ ンクルマ科学技術大学（昆虫学修士・00年） ④ BBBA ⑤ 河北農業大学（中国）：中国産業経営・10年 ・河北農業大学（中国）：農業システムおよび乾燥地帯農業・06年 ・河北農業大学（中国）：農業開発計画・04年	① 郡の農業開発計画の作成および郡全体の一体化計画との一貫性の監督 ・郡の農業局の財政、人事、資材調達などの日常業務の管理と連携 ・研修プログラムのスケジュール管理および技術支援の確保 ・郡の農業開発プログラムに関する食糧農業省担当者との連絡 ・郡の（農業関連）データの収集、照合、分析 ・郡の食糧安全保障 ・郡の農業（政策）に関する郡議会への助言 ・郡の農業プログラムの効果的なモニタリングと評価 ・技術支援リーフレット製作における州食糧農業局との協力 ② （食糧農業省）研究や技術開発、効果的な普及を通じて持続可能な農業と成長するアグリビジネスの促進と、農家、加工業者、流通業者の収入向上のための支援業務を行う。	・帰国後にスタッフおよび農家に対する研修ができるように、農民主導による普及手法の知識を向上すること （特に関心のあること） ・農民圃場学校（FFS）の概念 ・普及計画の作成 ・地域における協同組合の役割 ・参加型手法における野菜の特性や加工	
3	① TETTEY Godwin Mawutor ② D ③ 46 ④ 男性 ⑤ ガーナ	① 食糧農業省 農業普及局（南ダイ郡）農業局長 ② 1年10ヶ月 ③ ケープコースト大学（農業普及 理学士・01年） ④ AABA ⑤ インド経営大学院ラクノウ校：保全型農業・14年 ・亜熱帯花卉研究所（中国福建省）：花卉生産技術・12年	① 総務事務業務 ・農業普及員の業務の監督 ・郡における農業政策実施の監督 ・農業普及員の能力開発研修の実施 ② （食糧農業省）研究や技術開発、効果的な普及を通じて持続可能な農業と成長するアグリビジネスの促進と、農家、加工業者、流通業者の収入向上のための支援業務を行う。	・食糧安全確保と収入の向上のため、農民ベースによる最低限の資源を活用し、より広範囲での農業普及を確立すること （特に関心のあること） ・農家が直接教育プログラムに関わり他の農家に農業技術を拡大できるような参加型手法	

研修員情報（英語力はリスニング／スピーキング／読解／記述の能力の順に4段階で示す。A:優、B:良、C:可、D:自信なし）

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴（専攻） ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目	備考
4	① AFFUL, Sophia ② D ③ 35 ④ 女性 ⑤ ガーナ	① 食糧農業省 農業普及局 農業普及管理官 ② 4年4ヶ月 ③ ケープコースト大学（農業普及 理学士・01年 ④ ABAB ⑤ なし	① 月次報告書のまとめ ・農家および農業普及員の研修の準備 ・実地演習の準備 ・農家に対する技術普及 ② （食糧農業省）研究や技術開発、効果的な普及を通じて持続可能な農業と成長するアグリビジネスの促進と、農家、加工業者、流通業者の収入向上のための支援業務を行う。	・担当地域において農民主導による普及プログラムの実施ができること （特に関心のあること） ・化学（化学肥料を用いた簡素な実験） ・生物学（野菜の特性と加工） ・物理学（測量と統計） ・土壌学（土壌分析のための簡素な実験）	
5	① AMARIATI, Wycliffe Linyerera ② D1408705 ③ 40 ④ 男性 ⑤ ケニア	① 農業家畜水産省 普及研修部 モニタリング評定担当官 ② 5年8ヶ月 ③ ケニアメソジスト大学（農業および農村開発・理学修士・就学中） エガートン大学（農学・理学士・01年） ④ AAAA ⑤ なし	① プロジェクト計画、業務計画作成と実施 ・現地普及員の支援、農家グループの研修 ・モニタリングおよび評定業務 ・プロジェクト業績評価、見直し業務 ・データ収集、分析、報告 ・農家強化プログラムによる地域住民主導での開発の促進（農家を地域補助金への案内など） ② （農業家畜水産省）政策環境整備、効果的支援サービスの提供、持続可能性のある自然資源管理の確保を通して競争力のある農業を推進することにより、国民の生活を向上させる。 （人材開発部門）公正、能率的かつ倫理的な手法によって、研修および能力開発を立ち上げ、実施すること	・大変役に立ち効果的と思われる農民主導による普及手法の日本の経験に基づく持続可能で適切な農業実践方法 ・日本の経験を基に、どのように地域農民たちの行動パターンの転換を始めさせるか ・ケニアの実情に合わせて導入できる農民主導による普及の技術 （特に関心のあること） ・対象となる地域住民たちの意識向上につながる効果的な方法としての参加型手法を習得し実施すること。このことは研修と能力開発によって実現できるであろう。 ・ケニア農村部の資源に恵まれない農家を支援するための知識、スキル、実地経験	
6	① DZUMANI, Masautso Hesley ② D ③ 44 ④ 男性 ⑤ マラウィ	① 農業灌漑水源開発省 普及部 農業普及開発コーディネーター ② 1年1ヶ月 ③ マラウィ天然資源大学（農業・10年） ④ AAAA ⑤ なし	① 普及活動に関する農家およびスタッフの研修 ・現地スタッフの監督 ・グループ構成やグループ研修の実行 ・農業政策の地域住民への説明 ② （農業灌漑水源開発省）食料の安全確保、収入向上、雇用促進のための、農業生産と天然資源の持続的な管理と活用を推進、実行すること ・（普及部）世帯レベルでの食料確保による貧困減少のために、普及活動に必要な多様な需要に応え、サービスの公正さと供給を促進すること <上記Kalingaの記述より>	・帰国後に質の高い農業を広めることを支援してくれる指導的立場にいる農家に対して研修を行い、適切な手法とルートによって技術が普及する。（そのような農家が農業に依存するマラウィの経済力を支えることになる。） ・また実際に農地での生産に当たる小規模農家たちも、指導的な農家たちが支援することによって研修を行い、私の普及計画対象の全ての農村において、これらの指導的農家が選ば ・自らのスタッフに対しても農民主導の普及手法の概念を指導し、彼らも指導的農家たちに対しての指導ができるようにする （特に関心のあること） ・農民主導による普及に一役買うことになる農民圃場学校（FFS）について（自国では、自給型農業から商業農業への転換が求められており、もしこのことについて教わる機会があるとありがたい。）	カウンターパート

付表—1

研修員情報（英語力はリスニング／スピーキング／読解／記述の能力の順に4段階で示す。A:優、B:良、C:可、D:自信なし）

No	1氏名2研修員番号 3年齢4性別 5国名	1現職2現職期間 3最終学歴（専攻） 4英語力5研修経験	①候補者の業務内容 2所属先の業務内容	研修で学びたい項目	備考
7	① KALINGA, Charity Afonso ② D ③ 32 ④ 女性 ② マラウィ	① 農業灌漑水源開発省 普及部 農業普及開発担当官 ② 8年9ヶ月 ③ マラウィ天然資源大学（地域住民との協働・06年） ④ BBAB ⑤ なし	1 農業開発普及制作を現地農家に伝えること ・様々な分野における農業実演活動を組み立て、計画し、実行すること 2 （農業灌漑水源開発省）食料の安全確保、収入向上、雇用機会創成のための、農業生産と天然資源の持続的な管理と活用を推進、実行すること ・（普及部）世帯レベルでの食料確保による貧困減少のために、普及活動に必要な多様な需要に応え、サービスの公正さと供給を促進すること	・農業主導のコンセプトを実行させるための知識やスキルを身に付け、他の普及員や当事者との知識の交換をし、国に貢献すること。 （特に関心のあること） ・農家での科学的な問題に取り組むための、基礎科学と応用科学の関連性	カウンターパート
8	③ Tin Aye Win ④ D1409485 ⑤ 28 ⑥ 女性 ⑦ ミャンマー	① 農業省 農業普及部 担当アシスタント ② 2年1ヶ月 ③ イェジン農科大学（農業理学士・10年） ④ CCBB ⑤ （無記入）	① 国および地方の農業普及員の監督 ・水田における監督 ・農家による稲作のモニタリングと調査 ・農家への上質で高収穫な水稲種の配給 ・農家の土着の知識に基づいた適用可能な技術の導入 ② （農業普及部）先進的な農業技術の（農家への）移転 ・高品質種の配布 ・土地利用開発 ・農村部における農業研究開発部による活動との協力と調整	・日本の農民主導による普及手法および農村開発システムの先進的技術 （特に関心のあること） ・最新の米生産技術 ・種苗の品質管理システム ・農業普及 ・農村開発	
9	① Yin Myat Myat Min ② D1409486 ③ 24 ④ 女性 ⑤ ミャンマー	① 農業省 農業研究部 稲作部門 研究技術者 ② 3年 ③ イェジン農科大学（農業理学士・10年） ④ BBBB ⑤ なし	① 耐塩性品種米の育成と主食米として有望な種の種子の生産 ・主に適用可能な耐塩性米品種の開発、および農家へのその一連の技術の移転を担う。 ② （農業研究部）地域に適応する品種および生産技術の開発における、全ての関係者（農家、生産者、流通業者、消費者）のニーズに即した研究活動を体系的に実行すること	・農業普及に関連する知識と先進技術 ・農業技術移転を成功させるための農家との最善のコミュニケーション方法 （特に関心のあること） ・参加型手法 ・農業普及センター ・化学 ・土壌学 ・ファーマーズマーケット	
10	① Kyaw Htay ② D1409487 ③ 31 ④ 男性 ⑤ ミャンマー	① 家畜水産地方開発省 家畜育種獣医学部 獣医学副担当官 ② 7年3ヶ月 ③ 獣医学大学（獣医学士・07年） ④ BBBB ⑤ グラノット農業研究所（イスラエル）：OJT（実地研修）・12年 ⑥ OIE（国際獣疫事務局）（タイ）：狂犬病の国際基準に関するワークショップ・14	① 肉、牛乳、卵、そのほかの畜産品の生産性に関する情報収集 ・家畜調査 ・国および地方レベルのワクチン接種および治療 ・普及業務および普及業務に携わるスタッフの研修 ② 改善された家畜保健により国内消費（需要）に沿った家畜および畜産品の改善 ・農業普及に伴った役牛（農業労働用家畜）の増産 ・家畜および畜産品の貿易・流通の推進 ・関連製品の調査および生物学的製品の多角的研究	・農村開発に注力すること ・農家の問題を解決すること （特に関心のあること） ・教育用カリキュラムの計画 ・普及計画の作成	

付表ー1

研修員情報（英語力はリスニング／スピーキング／読解／記述の能力の順に4段階で示す。A:優、B:良、C:可、D:自信なし）

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴（専攻） ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目	備考
11	① MAVUSO. Nelson Sipho ② D ③ 49 ④ 男性 ⑤ スワジランド	① 農業省 農業促進普及部 上級農業専門官（技術業務） ② 5年10ヶ月 ③ スワジランド大学（作物学・理学修士 07年） ④ BBBB ⑤ スワロフ・ワイブル（スウェーデン）：種子生産および供給システムの組織作りと運営・01年 ・ マラウィ大学：キャッサバおよびサツマイモの植え付け機材と流通のための商業化と起業開発・00年	① 食糧安全保障に関する問題の持続的な解決のために農業促進普及部が適用する戦略の作成と立案 ・ 適切な技術情報を全てのレベルの農家と地域に発信するための、国レベルの専門家または農学者および農業研究（機関）の連携を調整すること ・ 専門家や農学者が滞在してフィールドワークを行っている地方機関での業務の監督とモニタリング ② ビジョン：国レベルおよび各家庭レベルでの食糧保障とバリューチェーンを通しての公平な富の分配を伴うスワジランドの農業および国内経済の持続可能な成長を確保するための能率的かつ持続可能な農業部門の確立と維持 ・ 使命：多様化と商業化により、スワジランドの農業生産システムを自給自足レベルからより商業化を視野に入れた生産システムへと転換すること	・ 革新的な農業普及業務の手法および技術に関して研修を通して習得したスキルを認識、適応、伝達する能力と技術 ・ 農業情報および技術情報を農業分野全てと関係者に広めるための革新的な方法 （特に関心のあること） ・ 農民主導による普及や農民圃場学校の研修単元の作成 ・ 農業情報および技術の普及方法の設計、開発および実施	
12	⑥ ABDALLA. Juma Omar ⑦ D1409081 ⑧ 36 ⑨ 男性 ⑩ タンザニア	① キジンバニ農業研修所（KATI） 普及および農業者研修部 教師 ② 10年6ヶ月 ③ ソコイネ農業大学（農村開発 学士・10年） ④ AAAA ⑤ （無記入）	① 農村社会学、農業普及手法、アグリビジネス、起業家コース、研究手法、フィールドデータ管理の指導 ・ 現場での実地研修の生徒のまとめ、農村部プログラム、特別プロジェクトなどの手配 ・ KATIの研修生に対する指導補助 ・ 専門家開発ワークショップ、研修、課外活動などへの参加 ③ 農業および関連分野における質の高い研修と研究 ・ 特にザンジバルおよび東アフリカ地域における農業および関連分野のコンサル業務 ・ KATIの収入の支援を目的とした、農業加工、畜産におけるモデルプロジェクトの立ち上げと管理	・ 普及研修手法のカリキュラム作成能力 ・ 基礎および応用科学の関係についての技術および知識 ・ 教育カリキュラムを活用してどのように普及計画を作成するか （特に関心のあること） ・ 農業教育におけるカリキュラム開発 ・ 農家に対する参加型手法の実践的活用法 ・ 農業普及プログラムの計画	
13	① MUFALALI. Sifaya ② D1408104 ③ 33 ④ 男性 ⑤ ザンビア	① 農業畜産省 農業部 技術サービス局 農業専門官 ② 1年9ヶ月 ③ ザンビア大学（農業工学 学士・09年） ④ ABAA ⑤ （無記入）	① 農業生産効率の向上のための農業機械技術伝達プログラムの編成と実行 ・ 適時の情報および適切な技術パッケージの提供と、技術担当官による同等の効果的な指導のための定期的研修の実施 ・ 農業普及員および農家の知識向上のための農業機械化に関する適時で適切な実地研修の実施 ② 食料と栄養の安全を確保し、労働機会を提供、および農業分野のGDP向上へ貢献する、持続可能かつ多様、競争力のある農業部門の開発を実現、支援すること	・ 農業畜産省における農業普及活動にて活用するカリキュラムを開発する能力 ・ 現在実施中の農民主導による普及活動関連のアクションプランの運用ができる能力 （特に関心のあること） ・ 帰国後に実施できる農民主導による普及活動関連のアクションプランが形成されること ・ 農民主導による普及活動に活用できるカリキュラムが開発できること	
14	① NKUMBULA. Lindah ② D1408105 ③ 27 ④ 女性 ⑤ ザンビア	① 農業畜産省 （部） 普及手法専門官 ② 1年2ヶ月 ③ ザンビア大学（農学 学士・11年） ④ AAAA ⑤ なし	① 農家およびスタッフの知識とスキルを向上するための農業普及手法の研修の適時の開発と実施 ・ （政府機関による）適切な介入の実行のための普及手法のモニタリングと評価の実施 ② 食料と一般家庭および国家レベルでの収入を確保し、農業分野のGDP向上へ貢献する、実現可能かつ競争力のある農業部門の開発を実現、支援すること	・ 革新的かつ効果的な（普及）サービスの強化のための多様な普及手法の能力 （特に関心があること） ・ 帰国後に実施できる農民主導による普及活動関連のアクションプランが形成されること	

付表-2

平成26年度(課題別研修)「農民主導による普及手法(B)」カリキュラム表

案件目標:帰国した研修員により、農民主導による普及が行われる。

単位:日

単元目標1:農民主導による普及で用いるカリキュラムを作成出来る。

科目	講義	実習	視察	討論	担当	講義内容
コースオリエンテーション	0.5				帯広畜産大学　教授 門平睦代	農民主導による普及手法を学ぶ本研修コースの研修目的および個々のプログラム内容を紹介。カリキュラム作成までのスケジュールを説明する。
帯広百年記念館			0.5		水戸部洋二	十勝の歴史・産業・自然を紹介する常設展示の視察を通じて、研修場所である十勝の農業、産業の発展過程を学ぶ。
帯広農業高等学校			1.0		水戸部洋二 帯広農業高等学校　教諭　織井恒	日本における農業高等学校の制度について、現在実施されている教育カリキュラムを中心に紹介する。十勝・北海道地域におい同校が果たしてきた役割を説明する。
農民学校	0.5				帯広畜産大学　教授 門平睦代	農民主導による普及の原点とも言える農民学校(Farmer School)とは何なのか、海外での事例を使いながら、農民学校の目的、運営方法などについて講義する。
農業教育カリキュラム	1.0				水戸部洋二 三浦たみ子	農業教育の基盤となるカリキュラムの作成について、日本の農業教育実践を紹介しながら作成までの過程を講義する。
日本における農業協同組合組織と役割	0.5				帯広市川西農業協同組合 参事　石山隆幸	日本における農業協同組合の成り立ちと農業組織の役割について現職の組合職員から紹介する。
アクションプランの作成	1.0				帯広畜産大学　講師 グレン・ヒル	アクションプランの作成およびパワーポイントを活用したわかりやすいプレゼンテーションの手法について紹介する。
参加型手法	1.0				帯広畜産大学　教授 門平睦代	農民が主体的に動き出すためには参加型手法の活用が欠かせない。代表的手法を習得するために、さまざまな事例を紹介し、実際にグループに分かれて実習を行う。
畜産フィールド科学センター			0.5		帯広畜産大学　教授 門平睦代 畜産フィールド科学センター職員	帯広畜産大学において教育・研究の場となっている畜産フィールド科学センターについて、取り組みの概要等を紹介する。
研修総括		1.0			門平睦代 水戸部洋二	これまで学んできた内容について総括し、参加者全員で討論し、研修員各自がユニークなカリキュラムを作成するために必要なアイデアを生み出す一助とする。
カリキュラム作成準備		2.0			門平睦代 グレン・ヒル	研修員各自が自らのカリキュラムを作成し、発表会へ向けて準備を行う。門平教授はカリキュラム内容、グレン・ヒル講師はプレゼントパワーポイント技術についてそれぞれ指導する。
小計	4.5	3.0	2.0	0.0		

単元目標2:基礎科学をまなび、応用化学との関係が説明できる。

科目	講義	実習	視察	討論	担当	講義内容
作物の生長と生理的特性	0.5	0.5			帯広畜産大学　准教授 秋本正博	午前は作物の生長と生理的な特徴に関する講義。午後は大学の実験室で作物の発芽試験などの基礎的項目について実習する。
基礎科学(生物)	0.5	0.5			帯広畜産大学　准教授 小嶋道之	ヒトは何故食べるのか? ヒトは何を食べるのか?などを中心に講義・実習する。
基礎科学(測定)	0.5	0.5			帯広畜産大学　准教授 紺野康夫	農業分野における物理量の測定方法とデータ処理の基礎を講義する。また、各種測定方法について実習する。
十勝の農業と土壌、土壌診断の方法	0.5	0.5			帯広畜産大学　教授 筒木潔	午前中は土壌診断に関する講義。午後は大学の研究室で、土壌分析、などの基礎的項目について実習する。
小計	2.0	2.0	0.0	0.0		

単元目標3:地域開発における農業畜産の意義について説明できる。

科目	講義	実習	視察	討論	担当	講義内容
JAと地域開発	0.5				太田　助	士幌町農業協同組合職員として、士幌町の農業発展に寄与した経験から、農業技術普及における難しさ、地域の農業技術の向上にむけた創意工夫を紹介し、研修員と意見交換を行う。
経営教育と経営論	0.5	0.5	0.5		インサイトマネジメント株式会社・代表取締役 坪井真一 リバティヒル広瀬牧場ウエモンズハート 広瀬文彦	農業経営において必要となる経営の概念を紹介し、牛丼屋経営シミュレーションなどのロールプレイを通じて、経営論を学ぶ。また、実際に自家生産から商品開発・販売までを行っている農家を訪問し、経営の現場を視察する。
十勝農業改良普及センター視察			0.5		十勝農業改良普及センター北部支所長 岩谷　豊	農業改良普及の現場に訪問し、普及員の実際の活動に触れる。農業改良普及の成功事例や、他ステークホルダーとの協力体制を紹介する。
士幌町農業の歴史と現状／士幌町農業協同組合関係施設の見学			0.5		士幌町農業協同組合 畜産部長　西田康一	士幌町は農業を基幹産業として発展し、現在でも農業が地域の社会経済を支えている。士幌町農業の発展の歴史と、それに果たした役割を農業協同組合の視点から紹介する。／ 士幌町農業協同組合では組合員の出資を基盤として、農産物に付加価値をつけるべく加工・販売を行っており、その関係施設を訪問する。
士幌高校(歴史と教育内容)			0.5		士幌高等学校 教諭　杉本忠宏	町立の農業高等学校として発足した経緯を紹介。地域としての農業への姿勢、その一連の流れの中で、若手人材育成を担ってきた同校の取組を紹介する。
地域特産品の活用と士幌町農家訪問			0.5		三浦たみ子	地域で生産される食材を使った料理を実際に体験することで、農業の重要性を身近に感じる。また、士幌高等学校の卒業生を中心に、農家の現場を訪問する。士幌高等学校の学びがどのように活用されているか、また、農業関係機関との関係等について視察する。
よつ葉乳業株式会社十勝主管工場視察			0.5		十勝主管工場	発足にあたって、酪農家自身が出資し、生産から流通まで一体となって取り組んでいくことを目標とした同工場を視察。士幌町で生産された生乳はこの工場で処理されている。
小計	1.0	0.5	3.0	0.0		
合計	7.5	5.5	5.0	0.0		

日程表（案）

日付	時刻	形態	研修内容	講師又は見学先担当者等		研修場所
				氏名	所属先及び職位	
1/13(火)			来日			
1/14(水)	9:30 ～ 12:00	講義	ブリーフィング		JICA北海道（帯広）	
	13:00 ～ 15:30	講義	ブリーフィング			
	15:00 ～ 16:00	講義	インセプションレポート発表準備についてのガイダンス		JICA北海道（帯広）	
	16:30 ～ 17:00	講義	貸出物配布			
	18:00 ～ 19:30	講義	日本語研修		木村　敦子	
1/15(木)	9:30 ～ 11:30	講義	オリエンテーション(日本の政治・行政機構)	三野宮　功	(株)ヴィレッジ代表取締役	
	13:00 ～ 15:00	講義	オリエンテーション(日本の経済)	浦島　久	(株)ジョイ・インターナショナル　代表取締役	
	15:15 ～ 17:15	講義	オリエンテーション(日本の教育)	池添　博彦	帯広大谷短期大学　名誉教授	
	18:00 ～ 19:30	講義	日本語研修		木村　敦子	
1/16(金)	～					
	14:00 ～ 17:00	発表	I/R発表会リハーサル		JICA北海道（帯広）	会議室
	18:00 ～ 19:30	講義	日本語研修		木村　敦子	
1/17(土)						
1/18(日)						
1/19(月)	9:15 ～ 9:45		市長表敬	柏木　琴美	帯広市役所　親善交流課	帯広市役所
	13:30 ～ 14:30	講義	コースオリエンテーション	門平　睦代	帯広畜産大学教授	帯広畜産大学 本部棟大会議室
	14:30 ～ 17:00	発表	インセプションレポート発表会	門平　睦代 水戸部　洋二	帯広畜産大学教授 元帯広農業高等学校長	帯広畜産大学 本部棟大会議室
1/20(火)	9:00 ～ 12:00	講義	農業教育カリキュラム（1）	水戸部　洋二	元帯広農業高等学校長	帯広畜産大学 1号館E2501
	13:00 ～ 16:00	講義	日本における農業協同組合の組織と役割	石山　隆幸	帯広市川西農業協同組合参事	JA川西
1/21(水)	9:30 ～ 12:00	講義	十勝農業改良普及センター北部支所	岩谷　豊	十勝農業改良普及センター北部支所長	十勝農業改良普及センター北部支所
	13:30 ～ 16:00	見学	士幌高校訪問	杉本　忠宏	士幌高等学校教諭	士幌高等学校
1/22(木)	9:00 ～ 12:00	講義	農業教育カリキュラム（2）	水戸部　洋二 三浦　たみ子	元帯広農業高等学校長 元士幌高校教諭	帯広畜産大学 1号館E2501
	13:30 ～ 15:30	見学	帯広百年記念館	水戸部　洋二	元帯広農業高等学校長	帯広百年記念館
1/23(金)	9:00 ～ 12:00	講義	JAと地域開発	太田　助	元士幌農業協同組合専務理事	士幌町農協記念館
	13:15 ～ 17:15	見学	士幌町農業の歴史／施設見学	西田　康一	士幌町農業協同組合畜産部長	士幌町農協記念館他
1/24(土)						
1/25(日)						
1/26(月)			休み			
	13:00 ～ 16:00	講義	農民学校	門平　睦代	帯広畜産大学教授	帯広畜産大学 1号館E2501
1/27(火)	9:00 ～ 12:00	講義	参加型手法	門平　睦代	帯広畜産大学教授	帯広畜産大学 1号館E2501
	13:00 ～ 15:15	講義	参加型手法	門平　睦代	帯広畜産大学教授	帯広畜産大学 1号館E2501
	15:15 ～ 16:00	講義	畜産フィールド科学センター	門平　睦代	帯広畜産大学教授	帯広畜産大学FSC
1/28(水)	10:00 ～ 15:00	見学	三浦たみ子先生宅（農家見学含む）	三浦　たみ子	元士幌高等学校教諭	三浦先生宅
1/29(木)	10:00 ～ 11:30	見学	よつ葉乳業株式会社　十勝主管工場視察	小西（Mr.）	よつ葉乳業株式会社十勝主管工場 見学担当	よつ葉十勝主管工場
	13:00 ～ 16:00	講義	アクションプランの作成	グレン・ヒル	帯広畜産大学講師	オリエンテーションルーム

日付	時刻	形態	研修内容	講師又は見学先担当者等 氏名	講師又は見学先担当者等 所属先及び職位	研修場所
1/30(金)	9:00 ～ 12:00	見学	帯広農業高等学校 生徒によるプロジェクト発表 生徒-研修員のディスカッション ※通訳4名配置	織井　恒 (水戸部 洋二)	帯広農業高等学校教諭 (元帯広農業高等学校長)	帯広農業高等学校
	13:00 ～ 16:00	見学	帯広農業高等学校 施設見学、帯広農業高等学校の教育について ※通訳は1名でOK	織井　恒 (水戸部 洋二)	帯広農業高等学校教諭 (元帯広農業高等学校長)	帯広農業高等学校
1/31(土)						
2/1(日)						
2/2(月)	9:00 ～ 12:00	講義	基礎科学	秋本　正博	帯広畜産大学准教授	帯広畜産大学 1号館E2501
	13:00 ～ 16:00	実習	基礎科学	秋本　正博	帯広畜産大学准教授	帯広畜産大学 1号館E2501
2/3(火)	9:00 ～ 12:00	講義	基礎科学	小嶋　道之	帯広畜産大学准教授	帯広畜産大学 1号館E2501
	13:00 ～ 16:00	実習	基礎科学	小嶋　道之	帯広畜産大学准教授	帯広畜産大学 1号館E2501
2/4(水)	9:00 ～ 12:00	講義	基礎科学	紺野　康夫	帯広畜産大学教授	帯広畜産大学 かしわプラザマルチルーム２
	13:00 ～ 16:00	実習	基礎科学	紺野　康夫	帯広畜産大学教授	帯広畜産大学 かしわプラザマルチルーム２
2/5(木)	9:00 ～ 12:00	講義	基礎科学	筒木　潔	帯広畜産大学教授	帯広畜産大学 かしわプラザマルチルーム２
	13:00 ～ 16:00	実習	基礎科学	筒木　潔	帯広畜産大学教授	帯広畜産大学 かしわプラザマルチルーム２
2/6(金)	9:00 ～ 12:00		アクションプランの作成	グレン・ヒル	帯広畜産大学講師	オリエンテーションルーム
	13:00 ～ 16:00	見学	経営教育と経営論 (自家生産から商品開発・販売まで)	広瀬　文彦 (水戸部洋二)	リバティヒル広瀬牧場 ウエモンズハート代表 (元帯広農業高等学校長)	リバティヒル広瀬牧場
2/7(土)	9:00 ～ 12:00	講義	経営教育と経営論	坪井　真一	インサイトマネジメント株式会社 代表取締役	ｾﾐﾅｰﾙｰﾑ4
	13:00 ～ 16:00	実習	経営教育と経営論（実習）	坪井　真一	インサイトマネジメント株式会社 代表取締役	ｾﾐﾅｰﾙｰﾑ4
2/8(日)						
2/9(月)	9:00 ～ 12:00	実習	研修総括	水戸部　洋二	元帯広農業高等学校長	オリエンテーションルーム
	13:00 ～ 16:00	実習	発表練習	門平　睦代	帯広畜産大学教授	オリエンテーションルーム
2/10(火)	9:00 ～ 12:00	実習	カリキュラム作成準備	グレン・ヒル	帯広畜産大学講師	オリエンテーションルーム
	13:00 ～ 16:00	実習	カリキュラム作成準備	門平　睦代	帯広畜産大学教授	オリエンテーションルーム
2/11(水)	9:00 ～ 12:00	実習	カリキュラム作成準備	門平　睦代	帯広畜産大学教授	オリエンテーションルーム
	13:00 ～ 16:00	実習	カリキュラム作成準備	門平　睦代	帯広畜産大学教授	オリエンテーションルーム
2/12(木)			帰国準備（仮）・必要に応じて入れる			
	13:00 ～ 14:00		評価会	門平　睦代	帯広畜産大学教授	帯広畜産大学 本部棟大会議室
	14:00 ～ 16:30	発表	アクションプラン発表会	門平　睦代 水戸部　洋二	帯広畜産大学教授 元帯広農業高等学校長	帯広畜産大学 本部棟大会議室
	16:30 ～ 17:00		閉講式			帯広畜産大学 本部棟大会議室
	17:00 ～ 17:30		閉講パーティー			帯広畜産大学 逍遥舎
2/13(金)			帰国			

付表-4

年度別受入実績表

1．応募／選定（受入）人数

	平成24年度(A)	平成24年度(B)	平成25年度(A)	平成25年度(B)	平成26年度(A)	平成26年度(B)	累計
応　募　数	15名	14名	14名	16名	25名	16名	100名
受　入　数	12名	14名	14名	13名	14名	14名	81名

2．国別受入人数

○男性　●女性

国　　名	平成24年度(A)	平成24年度(B)	平成25年度(A)	平成25年度(B)	平成26年度(A)	平成26年度(B)	累計
アフガニスタン	○	○○ (C/P2名)	○○			○	6名
ベナン	○○			○○	○		5名
エジプト	●						1名
エチオピア		○		○○	○○ (内1名C/P)		5名
ガーナ		○○○	○○○			○○●	9名
ギニア		○		○	○		3名
ケニア				○		○	2名
コソボ				●	●		2名
マラウイ	○○●		○○●		○●●	○● (C/P2名)	11名
モザンビーク		○○		○	○		4名
ミャンマー	○●●		○●●			○●●	9名
ナイジェリア	○○ (内1名C/P)			○● (内1名C/P)	○		5名
スワジランド		○●				○	3名
タンザニア		○		○		○	3名
ザンビア		○○		○●		○●	6名
ブルキナ ファソ			○		○		2名
カンボジア			○				1名
タジキスタン			○				1名
フィリピン					●		1名
ブータン					○ (C/P1名)		1名
合　計	6カ国 12名	8カ国 14名	7カ国 14名	9カ国 13名	11カ国 13名	8カ国 14名	49カ国 80名

独立行政法人 国際協力機構　北海道国際センター（帯広）
〒080-2470　北海道帯広市西２０条南６丁目１番地２
TEL：0155-35-1210　FAX：0155-35-1250
ホームページ：www.jica.go.jp/obihiro/
メール：jicaobic@jica.go.jp